

もの造りサポーターティングカンパニー



第59期(2011年3月期) 第2四半期決算説明会



大和工場

2010年11月15日



**1. 第59期(2011年3月期)
第2四半期決算概要**



第2四半期連結業績概要

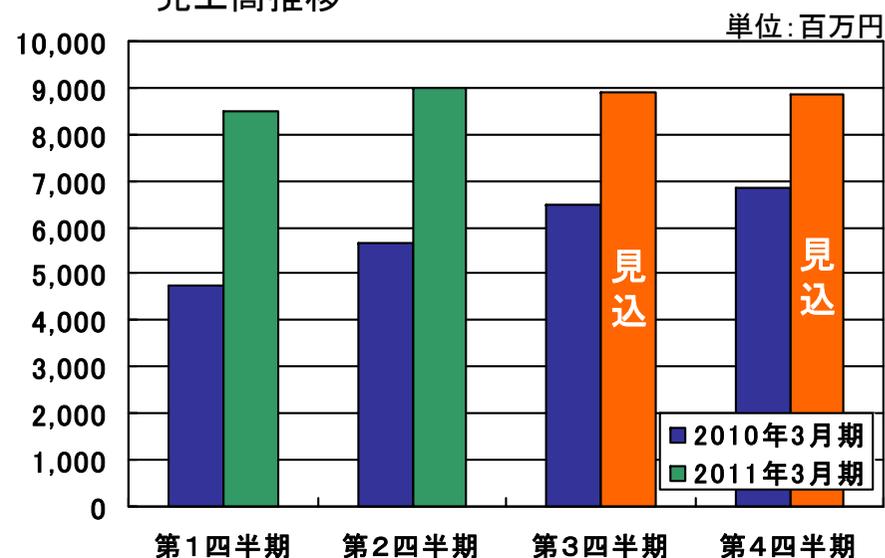
2011年3月期上期

前期第3四半期からの景気の緩やかな回復が継続し、生産活動が活発になった結果、売上、利益ともに前年同期比で順調に推移。

	当中間期	09/9月期比
1株あたり 中間純利益	26円75銭	34円57銭増

	当中間期	10/3月期比
自己資本比率	64.0 %	0.6 % 減
1株あたり 純資産	1042円7銭	23円26銭増

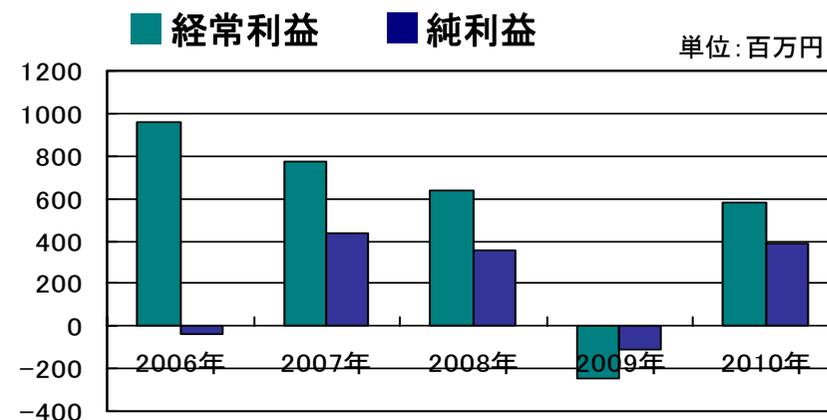
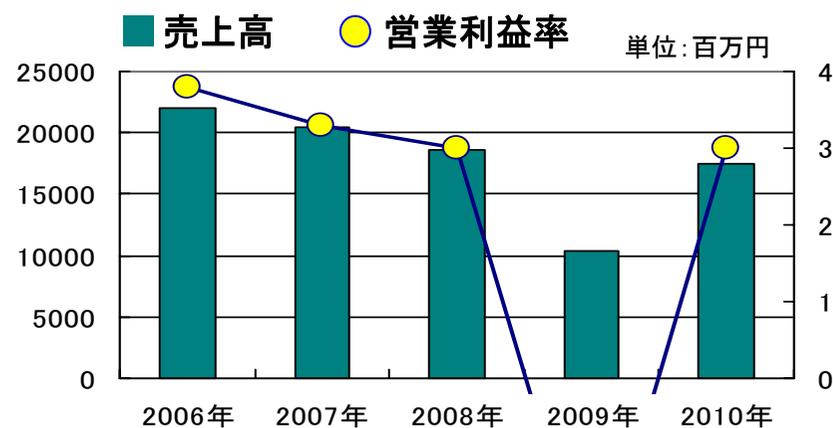
売上高推移



第2四半期連結業績

単位:百万円

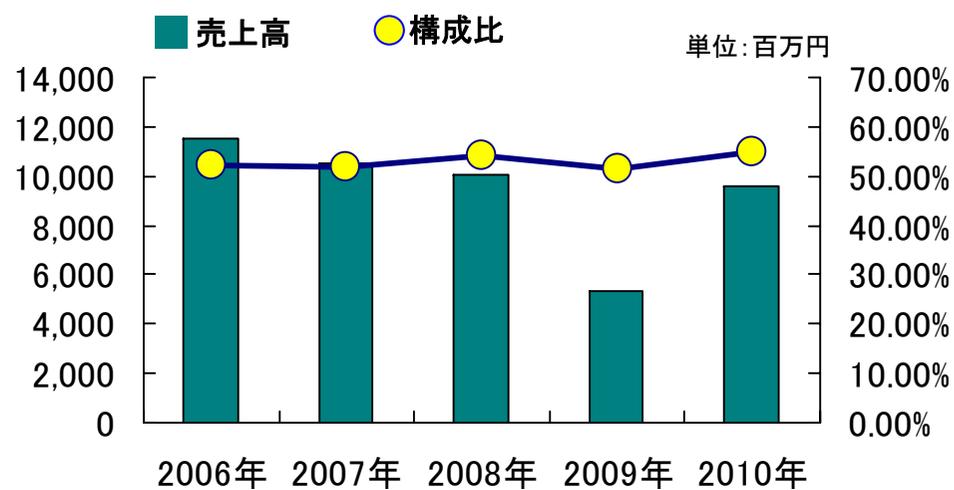
	06年9月	07年9月	08年9月	09年9月	10年9月	11年3月期 第1四半期 公表時予想	差異
売上高	22,083	20,391	18,561	10,382	17,457 (68.2%)	17,200	257 (1.5%)
営業利益	850	680	558	▲303	515 (— %)	360	155 (43.2%)
(営業利益率)	3.8%	3.3%	3.0%	—%	3.0 %	2.1 %	0.9%
経常利益	960	777	636	▲250	581 (— %)	430	151 (35.2%)
(経常利益率)	4.4%	3.8%	3.4%	—%	3.3 %	2.5 %	0.8 %
純利益	▲ 39	439 (—)	357 (—)	▲114 (—)	391 (— %)	260	131 (50.4%)
1株当り 中間配当金	8.0 円	10.0 円	8.0 円	0 円	5.0 円	5.0 円	— 円



FA機器分野(連結)

単位:百万円

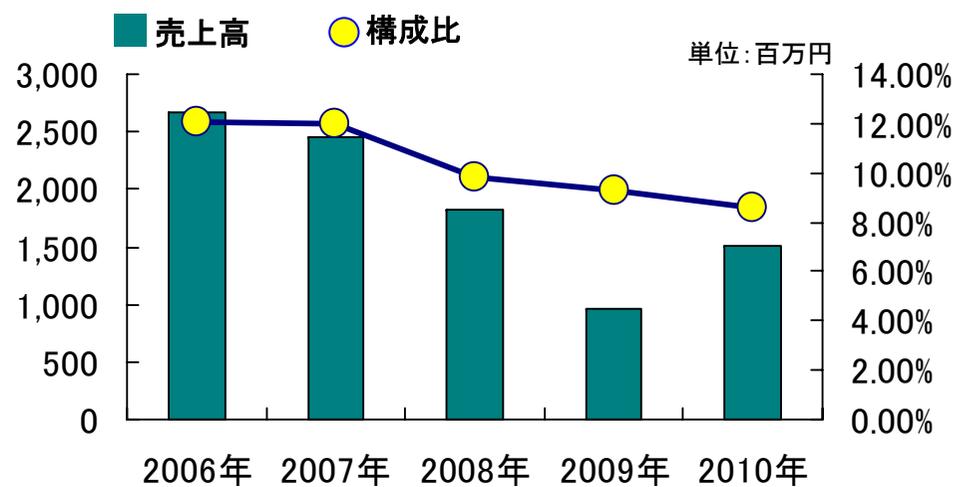
	2006年 9月	2007年 9月	2008年 9月	2009年 9月	2010年 9月
売上高	11,541	10,544	10,046	5,345	9,584
伸長率	12.5%	▲ 8.6%	▲ 4.7%	▲ 46.8%	79.3%
売上高 構成比	52.3%	51.7%	54.1%	51.5%	54.9%



情報・通信機器分野(連結)

単位:百万円

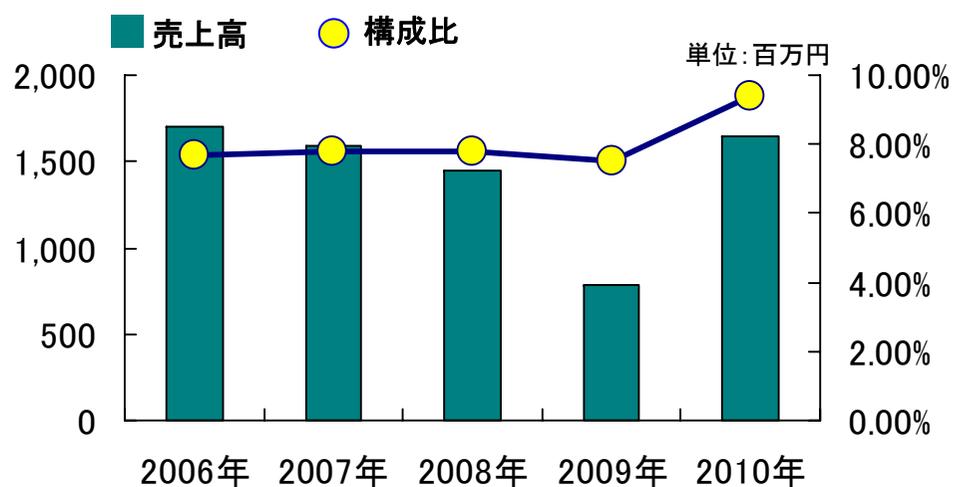
	2006年 9月	2007年 9月	2008年 9月	2009年 9月	2010年 9月
売上高	2,675	2,450	1,820	961	1,504
伸長率	3.2%	▲ 8.4%	▲ 25.7%	▲ 47.2%	56.4%
売上高 構成比	12.1%	12.0%	9.8%	9.3%	8.6%



電子・デバイス機器分野(連結)

単位:百万円

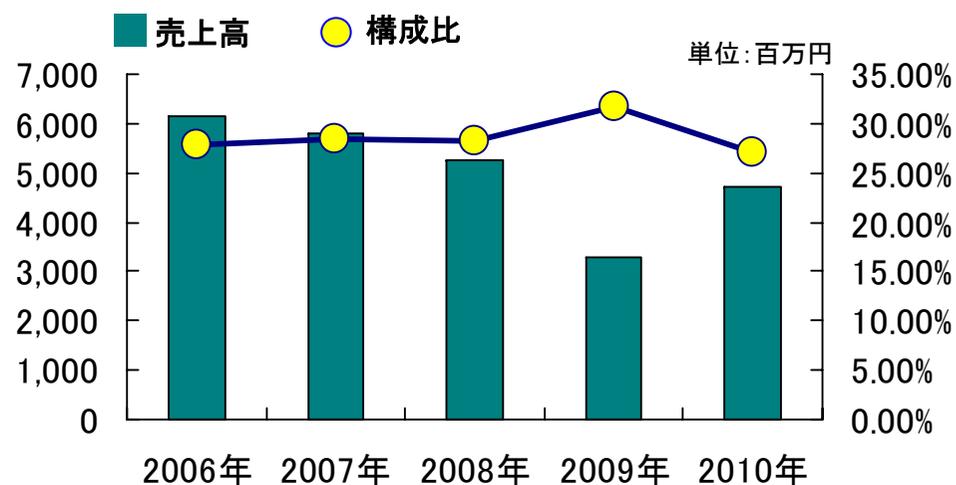
	2006年 9月	2007年 9月	2008年 9月	2009年 9月	2010年 9月
売上高	1,703	1,594	1,450	783	1,642
伸長率	27.8%	▲ 6.4%	▲ 9.0%	▲ 45.9%	109.5%
売上高 構成比	7.7%	7.8%	7.8%	7.5%	9.4%



電設資材分野(連結)

単位:百万円

	2006年 9月	2007年 9月	2008年 9月	2009年 9月	2010年 9月
売上高	6,163	5,802	5,245	3,291	4,726
伸長率	11.5%	▲ 5.9%	▲ 9.6%	▲ 37.3%	43.6%
売上高 構成比	27.9%	28.5%	28.3%	31.7%	27.1%



要約第2四半期連結貸借対照表(資産の部)

単位:百万円

	2009年9月	2010年3月	2010年9月	増減額(10年3月対比)
流動資産	13,869	14,098	14,685	587(104.2%)
（現金及び預金）	6,779	5,015	4,223	▲792(84.2%)
（受取手形及び売掛金）	5,688	7,534	8,679	1,144(115.2%)
（たな卸資産）	1,088	1,222	1,412	189(115.5%)
固定資産	9,026	8,955	9,132	177(102.0%)
（有形固定資産）	7,680	7,599	7,881	281(103.7%)
（無形固定資産）	164	164	118	▲46(71.7%)
（投資その他の資産）	1,181	1,191	1,132	▲58(95.1%)
資産合計	22,895	23,053	23,817	764(103.3%)

総資産は7億64百万円増加し、238億17百万円となりました。

主な要因は、受取手形及び売掛金の増加11億44百万円、在庫の増加1億89百万円の方で、現金及び預金の減少7億92百万円によるものです。

また、有形固定資産の増加については、主に宮城県黒川郡大和町に建設した大和工場の建設仮勘定の増加3億63百万円によるものであります。

要約第2四半期連結貸借対照表(資本・負債の部)

単位:百万円

	2009年9月	2010年3月	2010年9月	増減額(10年3月対比)
流動負債	4,165	5,681	6,361	679 (112.0%)
（支払手形及び買掛金）	3,214	4,449	4,873	423 (109.5%)
（短期借入金）	542	654	627	▲26 (95.9%)
固定負債	4,072	2,479	2,224	▲254 (89.7%)
（長期借入金）	2,862	1,309	1,055	▲253 (80.6%)
（退職給付引当金）	1,024	997	1,005	7 (100.7%)
負債合計	8,238	8,161	8,585	424 (105.2%)
（資本金）	1,819	1,819	1,819	—
（資本剰余金）	1,532	1,532	1,532	—
（利益剰余金）	11,507	11,715	12,106	391 (103.3%)
純資産合計	14,656	14,892	15,231	339 (102.3%)
負債純資産合計	22,895	23,053	23,817	764 (103.3%)

負債は4億24百万円増加し、85億85百万円となりました。

主な要因は、支払手形及び買掛金の増加4億23百万円、未払法人税等の増加2億21百万円の一方で、借入金の減少2億80百万円によるものであります。純資産は3億39百万円増加し、152億31百万円となりました。

利益剰余金は、第2四半期連結累計期間の四半期純利益の計上3億91百万円により増加しました。なお、自己資本比率は64.0%となりました。

要約第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	2009年9月	2010年3月期	2010年9月
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,254	978	▲268
投資活動によるキャッシュ・フロー	887	▲123	▲931
財務活動によるキャッシュ・フロー	143	▲1,334	▲289
現金及び現金同等物の増・減(▲)額	2,288	▲478	▲1,492
現金及び現金同等物の期首残高	4,480	4,480	4,002
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	6,769	4,002	2,510

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果減少した資金は、2億68百万円となりました。(前第2四半期連結累計期間における資金の増加は12億54百万円)これは主に税金等調整前四半期純利益6億79百万円、仕入債務の増加4億24百万円の増加要因、売上債権の増加11億44百万円、たな卸資産の増加2億6百万円の減少要因によるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果減少した資金は9億31百万円となりました。(前第2四半期連結累計期間における資金の増加は8億87百万円)これは主に無形固定資産の売却による収入1億33百万円、有形固定資産の取得による支出3億66百万円、中長期の資金繰り安定のために調達した資金を短期の定期預金7億円で運用したことによります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果減少した資金は2億89百万円となりました。(前第2四半期連結累計期間における資金の増加は1億43百万円)これは主に長期借入金の返済による支出2億93百万円によるものであります。



2. 第59期(2011年3月期)の見通し



2011年3月期の見通し

電気機器・電子部品・産業機械業界

半導体・液晶製造装置関連機器メーカー
産業機器メーカー

生産活動・設備投資は、第3四半期・第4四半期ともに
弱含みで推移すると予測



上期並で推移するものと予測

FA機器、電子・デバイス機器分野

半導体製造装置業界を
中心に横ばいで推移する
と予測

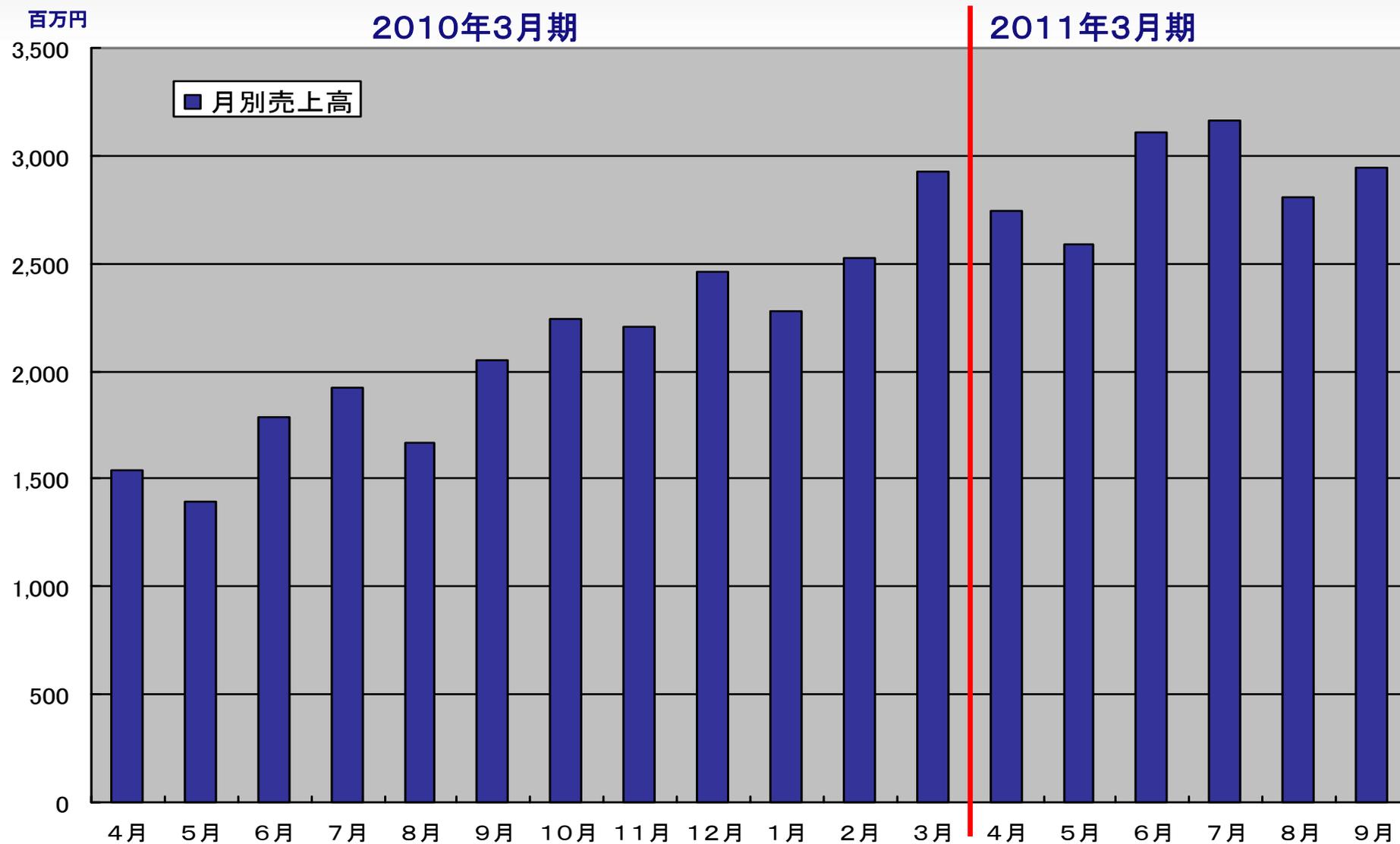
情報・通信機器分野

法人向けカスタムパソコン、
機器組込み用ボードコン
ピュータ等需要は、横ばい
で推移するものと予測

電設資材分野

工場設備需要や新規着工の
は低調に推移するものと
予測

月別売上推移(個別)



通期連結業績予想

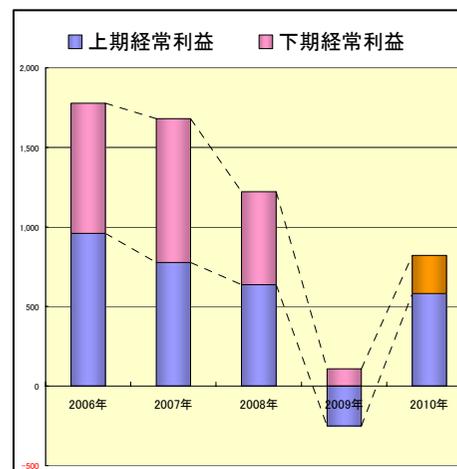
単位:百万円

	09年 3月期	10年 3月期	11年 3月期見込	11年3月期 第1四半期 公表時予想	予想との差異
売上高	33,034	25,068	35,000 (39.6%)	35,000	—
営業利益	620	▲14	670 (— %)	670	—
経常利益	746	120	820 (578.7%)	820	—
当期純利益	399	93	450 (382.0%)	450	—
1株当り年間配当金 (うち記念配)	14.0 円 (5.0円)	0.0 円 (0.0円)	11.0 円 (0.0 円)	11.0 円 (0.0 円)	—

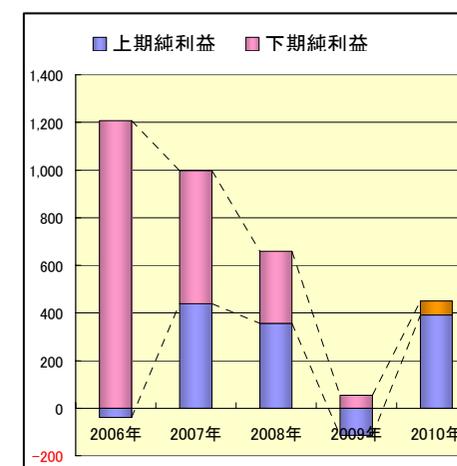
単位:百万円



単位:百万円



単位:百万円



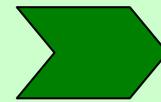


3. 重点課題戦略



当社の取組み

58期～60期【キーワード】
Re-Birth スズデン

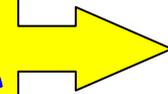


利益の最大化と徹底した
ローコストオペレーション

お客様にとって良いことを徹底して考え、実行することによって、
顧客満足度向上を図る

【59期 キーワード】
チャレンジ —何もしないことが罪—

改善を前提に
原則人員は増やさない



組織の壁を越えて、顧客満足を追求することを目指す

間接部門は効率化、精度向上、ローコストオペレーションを徹底して実行していく。
営業は守るべきはきっちり守りマーケット活動による提案営業により、徹底した
攻めの営業、戦う営業、諦めない営業の徹底をして行く。

経営戦略 もの造り拠点の構築

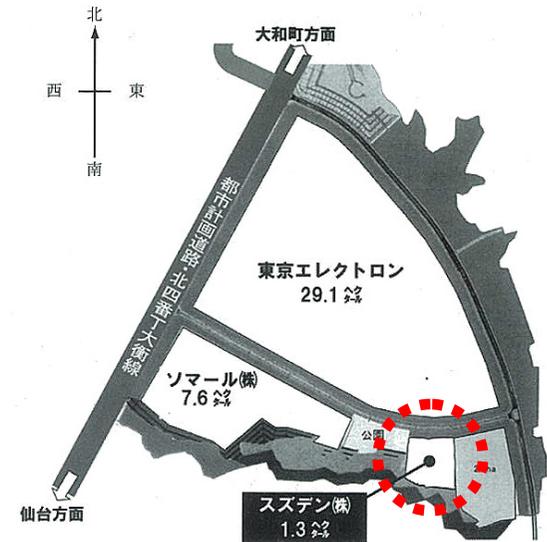
◆大和(たいわ)工場【工場+東北地区事業再構築】

所在地	宮城県黒川郡大和町テクノヒルズ3番
土地面積	12,573.49 m ²
延床面積	3,346.85 m ²
投資総額	約10億円(土地、建物、什器備品、システム費用等)
人員	10名(他 仙台営業所、大和営業所:10名)
内容	加工工場(アッセンブリー、ユニット加工、組立加工など) 仙台営業所を集約、大和営業所を新設
スケジュール	2010年 4月 着工 2010年10月 完工(11月5日 竣工式実施) 2010年11月 稼動

大和工場



大和町テクノヒルズ (リサーチパーク)



大和工場



営業戦略

①安定業界への営業力強化の継続

環境関連業界、二次電池業界、鉄道・電力等のインフラ業界

食品・環境・二次電池関連業界は担当者が、目標・施策を明確にし実施中。

②業種業態別営業推進

・・・半導体製造装置、食品関連、制御盤、エレベータなど
業界別の知識を持った営業担当者の育成

営業戦略

③小額取引先ビジネス強化

◆インターネット通販サイト「FA-UBON」の強化

- 法人会員(締め払い)スタート、受注窓口の拡大
- コンテンツ、企画の充実、モール(Yahoo)へ出店

◆WEBビジネスの拡充

- …既存業界以外(NON FA)への販売

④名古屋営業所の開設

- …東海地区での新規顧客獲得と売上拡大

営業戦略

⑤メカトロと環境ビジネスへの注力

メカトロ営業所と環境ビジネス営業所を中心とした全社展開



イメージ図

東京物流センターに
太陽光発電設備を設置
・・・ショールーム化して販促

商品戦略

注力商材

- 環境ビジネス ……測定・監視機器、太陽光発電、LED照明等
 フィービジネス(商品ではなく、機能を提供するサービス)
 「安心サービス」でお客様への経費削減、環境配慮の提案並びに取り扱い商材の更なる拡大
- メカトロ系商材 ……メカトロ営業所を中心に拡大(電動シリンダ、ACサーボモーター、ロボット)

主要仕入先商材

オムロン、パナソニック電工、日東工業等の国内有カメーカーからの直接仕入れによる安定供給での顧客満足獲得

【当社の主な取扱い商品】

オムロン ……制御機器・FAシステム、電子部品等
 パナソニック電工 ……照明器具、配線器具、その他電設資材
 日東工業 ……ボックス、分電盤、制御盤、システムラック等

当社オリジナルブランド ユーボン

- ◆少量販売と豊富な品揃え(多品種)
 - ◆ユーボン販売推進課による売上拡大策の実施
 - ・取扱いメーカー、商品の拡大
 - ・出前展示会の実施
 - ・加工品目の拡大(電線・端子台・ハーネス等)
- ※ユーボンカタログVOL9(6月発刊)

技術戦略①

■システムソリューション

顧客ニーズに直結したソリューション提案営業による大型商談の獲得を狙う。

アプリケーションソフトを
主体としたシステム構築



データ処理を主体とした
システム構築

■アプリケーション

センサー、PLC、視覚認識装置、メカトロ関連商品等の高機能商品を軸に顧客ニーズに直結した最適な製品の組み合わせによる提案営業を営業所との連携で行い、きめ細やかなサービスを提供。

積極的な横展開(営業との連携) ⇒ お客様のシステム化支援



アプリケーション事例集による社内への啓蒙と横展開

技術戦略②

■ベルセミナーの継続

快適工場セミナー、商品セミナー（IAI、デジタル等）

俺コンアキバを会場として実施

新製品のご案内や商品の使用方法、その他様々な内容のセミナーを定期的を開催。

普段使用している商品やメーカーへの見識を深めたい、メーカーの製品への取り組みなどについて知りたいなど、お客様のスキルアップをお手伝い。

今後、全国展開を予定。



物流戦略

- ・物流品質の継続的向上(導線見直し等による業務改善)
- ・物流コストの削減(配送コスト削減、生産性向上)
- ・調達物流によるCO₂削減と納品スピードUP
- ・キット化、製番・工番別出荷
- ・通い箱の採用によるダンボール、梱包材削減
- ・免震構造による危機管理

全 景



免震装置



その他施策①

■ 人材共育投資の強化を継続

- ・スズデンカレッジで層別で体系立てて実施
（今期30講座開催予定で26回開催）

① 組織・階層別研修

…マネジメント研修、リーダー研修等

② 技術・営業研修

…営業研修、メーカー研修等

③ 自己啓発 …通信教育等

その他施策②

■ 社内システムの再構築検討

(ネットワーク、クラウドコンピューティングの検討)

■ 事業継続マネジメントの構築・・・有事の初動策定(BCP) (BCM: Business Continuity Management)

■ CSR

- ・コンプライアンス
 - ・・・CSR要綱をパートタイマー・派遣社員を含む全社員へ配布
- ・中学生社会体験学習の受入れの継続
- ・寄付の継続

■ IFRSへの対応

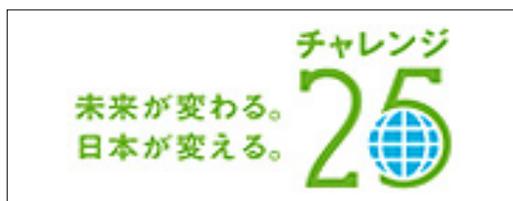
■ 固定資産見直しの継続

両国・横浜・立川・多摩等の土地・建物の見直しを継続

その他施策③

■ 環境への取組み

- ・ 太陽光発電設備を東京物流センターに設置予定
- ・ 「チャレンジ25」への参加



- ・ ISO14001マネジメントシステムによる継続的改善
 - ① 省エネルギー、リサイクル、資源の有効活用の推進
 - ② 環境配慮型商品の販売推進
 - ③ 仕入先様との品質改善会議の継続
 - ④ 環境に配慮した物流
 - ⑤ 「安心サービス」の促進
 - ⑥ ペットボトルキャップの回収（400個＝1kg＝10円、20円でポリオワクチン1人分に！）
 - ⑦ NPO法人「緑のごみ銀行」への参加 ……本社で出る茶殻や生ごみの堆肥化



スズデン株式会社

【注意事項】本資料に記載されている、スズデン株式会社の現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは異なる結果となりうることをご承知おきください。

■社 是

「誠 実」

■コアコンピタンス

「もの造りサポーティングカンパニー」

経営の基本方針

【社会的責任】

国・地方自治体への納税を基本とし、かつ世界の将来を担う世代や教育機関を対象とした継続的な寄付と、地域社会や災害復興を目的とした寄付を行ってまいります。

【投資家の皆様】

配当性向33%を基本に考えてまいります。

【お客様】

お客様が望む商品・ソリューションを的確に提案し、商品品質・サービス品質を向上させるとともに、お客様の多様なニーズに適切かつ迅速にお応えし、お客様の満足度を高めてまいります。

「顧客第一」 — 買っていただく喜び —

【社員】

「社員一人ひとりの自立が企業の成長につながる」を基本とし、社員は自己の能力を最大限に発揮し、会社は個人を尊重して働きがいのある場を提供し、会社も個人も共に成長できる経営を行ってまいります。

【共育】

お客様の満足度を高めるため、社員一人ひとりに適切な教育・訓練及び経験の機会を提供し「共に育つ」を教育理念としてまいります。

【地域社会】

循環型社会構築に向け地域社会との融和を図り、企業市民として順法・地球環境の向上・安全を基本として活動してまいります。活動を具体化するため、環境方針を定め行動します。

ビジネスモデル

「もの造りサポーティングカンパニー」

ISO9001 ・ ISO14001



当社システムエンジニアによる技術支援を柱に、高機能商品・システムのご提案やアプリケーションソフトのご提供をメーカーに代わって行う「メーカー代行機能」、独自の情報・物流システムで構成される「ロジスティック機能」、お客様の一括購買を代行する「購買代行機能」、お求めやすい価格・小ロットによるオリジナルブランド「UBON」などの機能を最大限に発揮し、広くもの造りの現場に貢献しています。